



第5回自殺総合対策の推進に関する有識者会議

妊産婦に対する支援

日本産婦人科医会 母子保健担当常務理事

相良洋子

(さがらレディースクリニック)



- (1)妊産婦の自殺についてわかっていること**
- (2)現在の取り組みとその課題**
- (3)新たな自殺総合対策大綱策定に向けて**



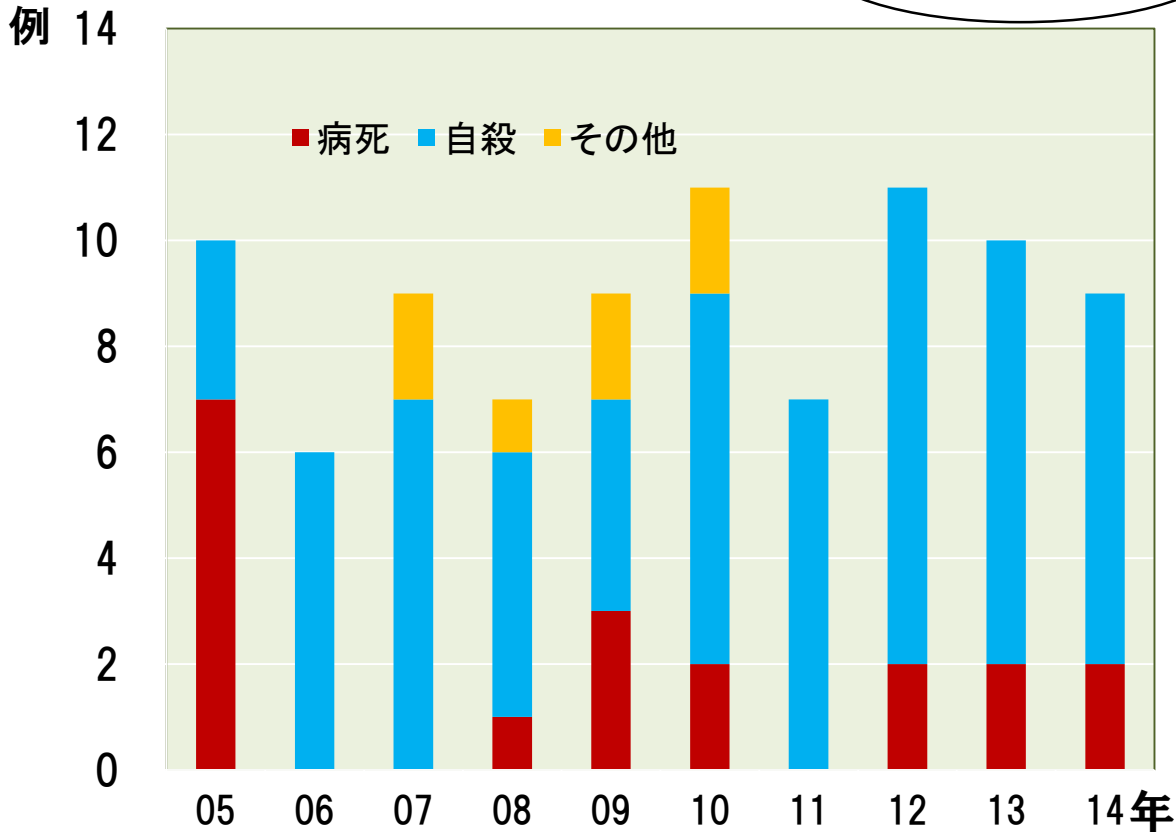
周産期の自殺

2005～2014年の10年間における
 東京都23区の妊産婦の突然死の実態調査
 妊婦と産後1年未満(妊産婦死亡+後発妊産婦死亡)の異状死
 東京都監察医務院： 引地和歌子、福永龍繁、
 順天堂大学産婦人科： 竹田 省

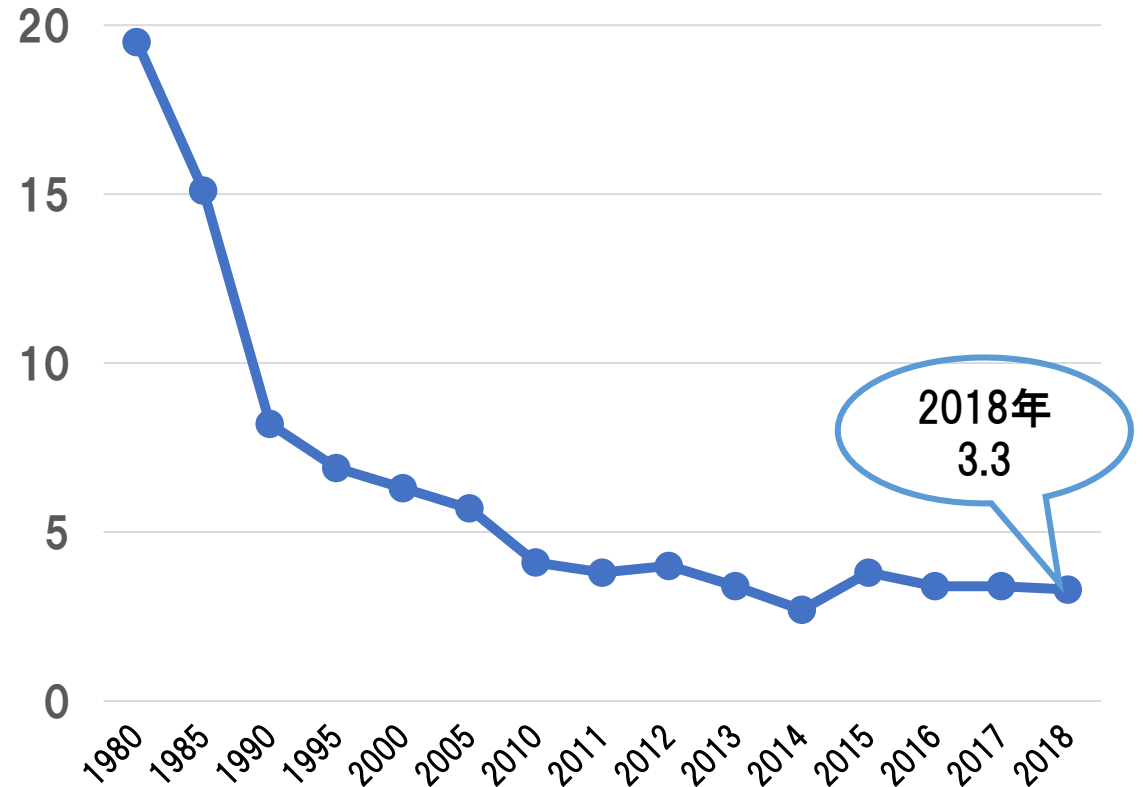
資料：e-Stat

異状死89例、うち自殺63例

出産10万あたり
8.7



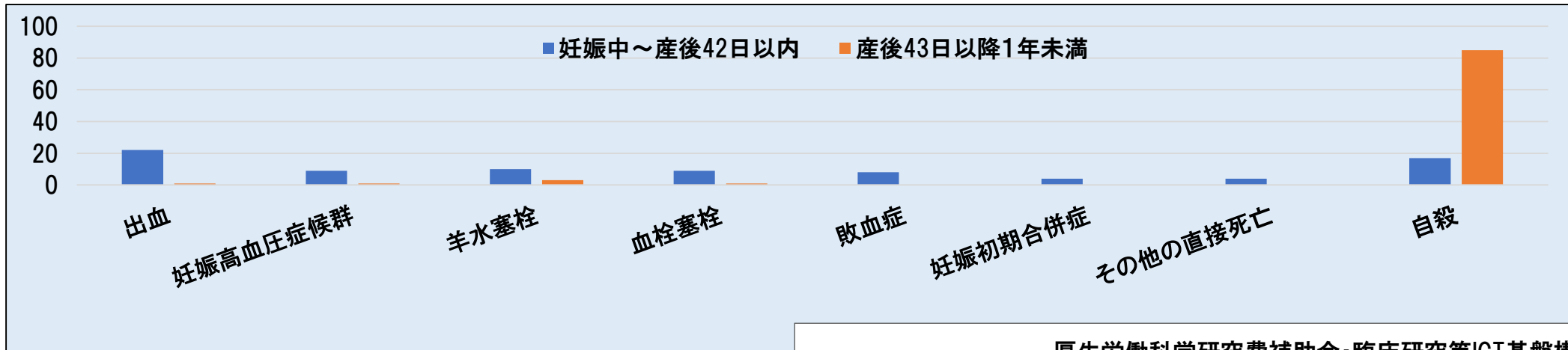
妊産婦死亡率の年次推移





リンケージ法を用いて把握した妊産婦死亡(直接産科的死亡と自殺:2015~2016)

	妊娠中～産後42日以内			産後43日以降1年未満			死亡時期不明	計
	0コード	妊娠関連語句のみ	リンケージ	0コード	妊娠関連語句のみ	リンケージ		
出血	20	0	2	0	0	1	0	23
妊娠高血圧症候群	8	0	1	1	0	0	1	11
羊水塞栓	10	0	0	3	0	0	0	13
血栓塞栓	4	0	5	1	0	0	1	11
敗血症	3	0	5	0	0	0	0	8
妊娠初期合併症	3	0	1	0	0	0	0	4
その他の直接死亡	0	0	4	0	0	0	0	4
自殺	0	3	14	0	0	85	0	102
計	48	3	32	5	0	86	2	176

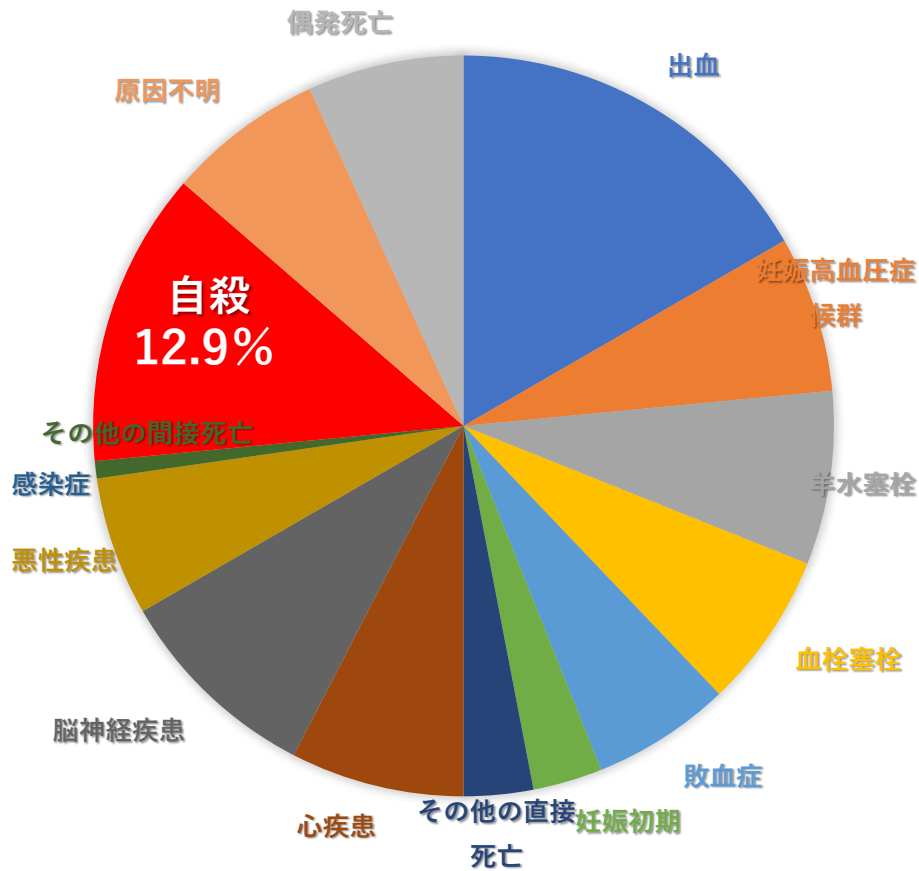


厚生労働科学研究費補助金・臨床研究等ICT基盤構築研究事業
「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究」
国立成育医療センター：山本依志子、森桂、太田えりか、永田知映、森崎菜穂、森臨太郎

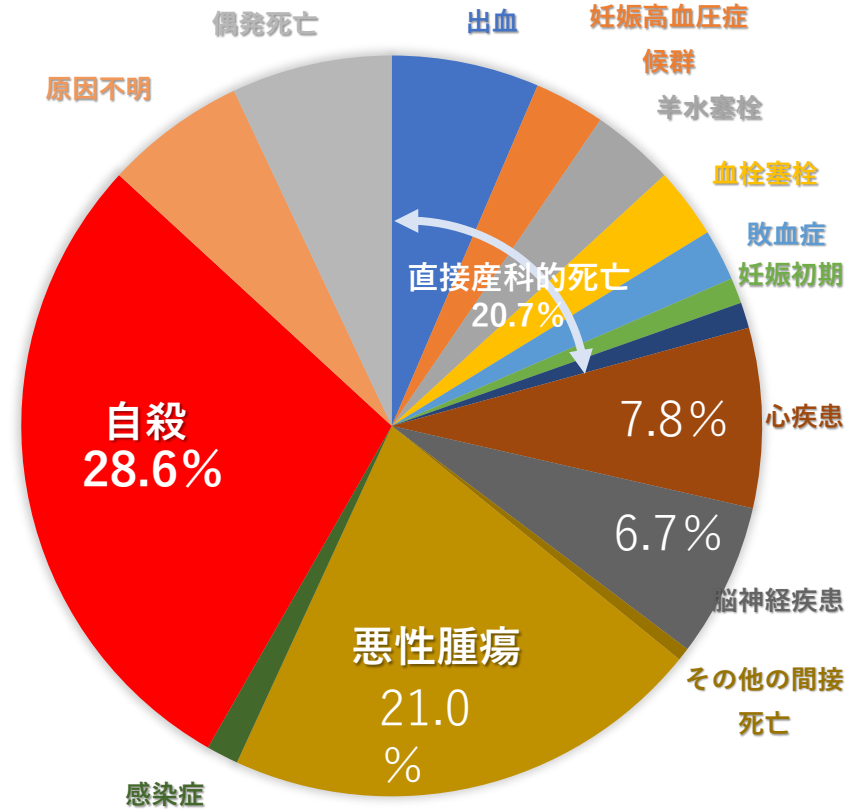
妊産婦死亡の時期別の原因別内訳

厚労科研森班のリンケージ解析の結果より

出産後42日以内の妊産婦死亡



出産後1年以内の妊産婦死亡

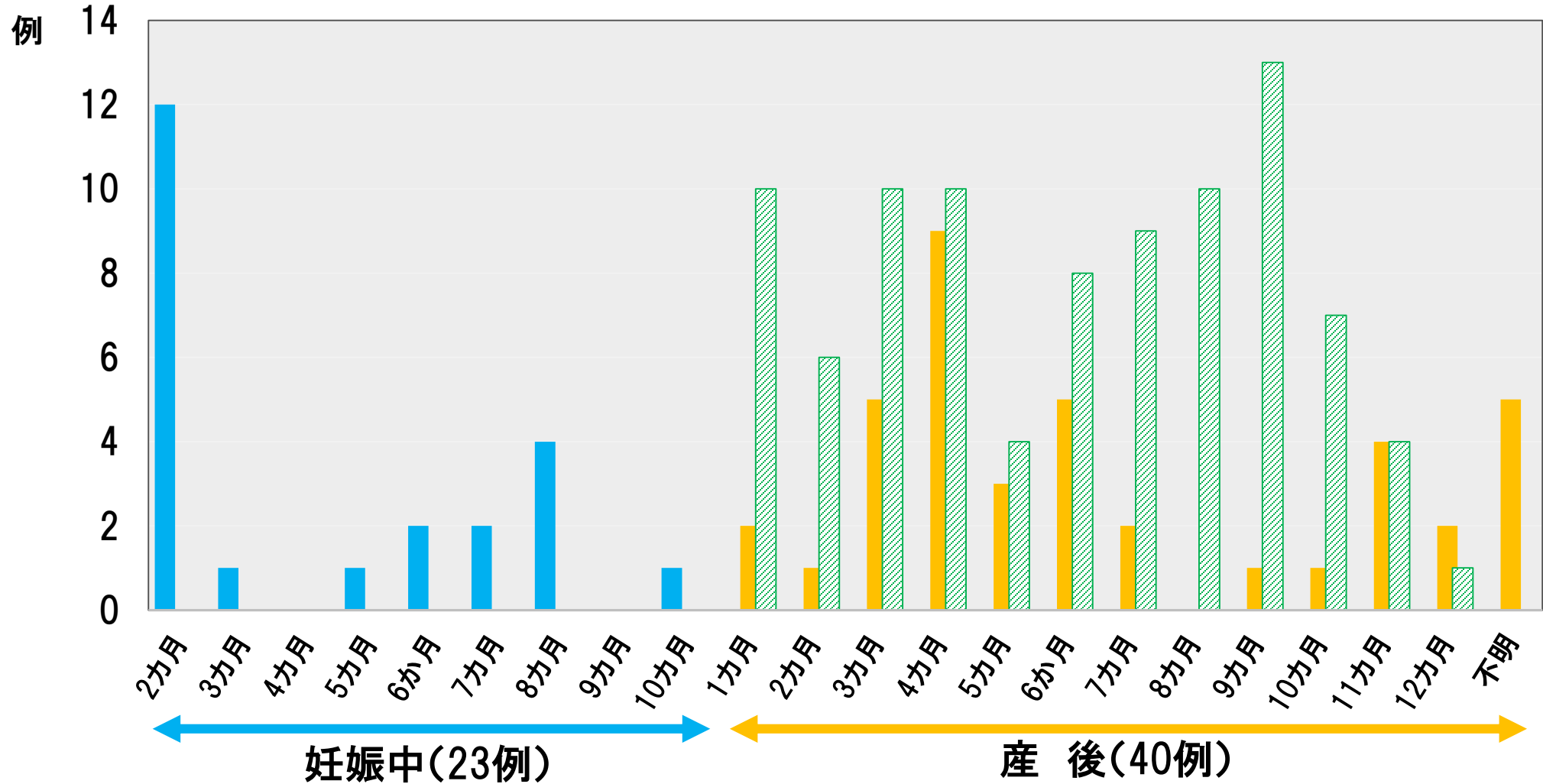


妊産婦死亡のおおよそ3割が自殺による死亡であり、対策する必要がある



妊産婦の自殺の時期

(東京都監察医務院からの報告にリンケージ法で得られた数字を重ね合わせたもの)

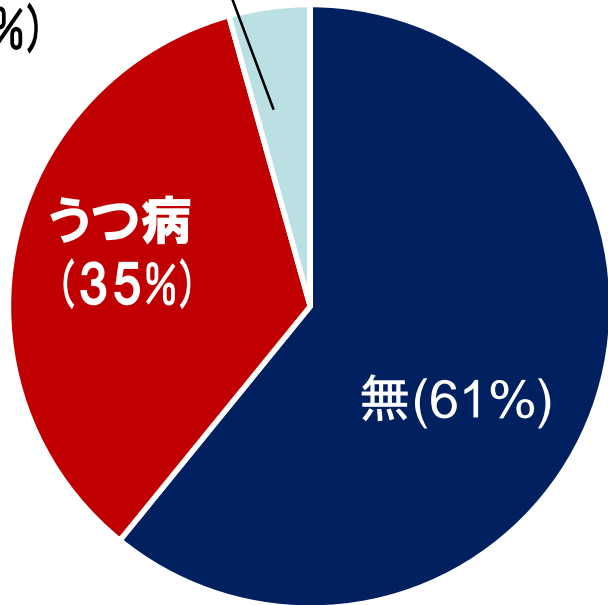


妊産婦の自殺と精神疾患

(東京都監察医務院からの報告)

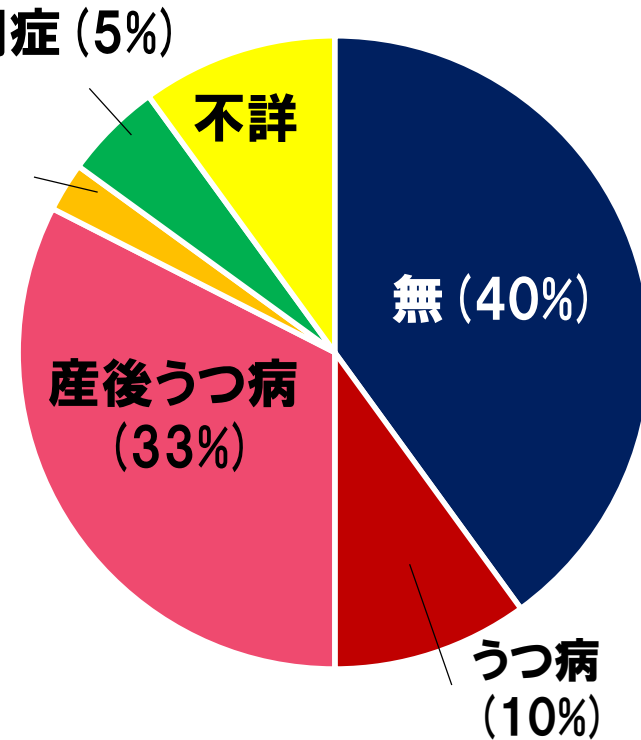
妊娠中23例

うつ病、
統合失調症
(4%)



産後40例

産後うつ病、
統合失調症
(3%)



子殺しに至った産後うつ病17例の症候学的特徴

事例No	母親	被害児	犯行に関連したうつ病症状						受診歴
	犯行時年齢	死亡時生後	育児不安	罪悪感	絶望感	子に対する悲観的認知・妄想	子への否定的感情	希死念慮	
1	22	7か月			○		○		○
2	23	43日	○		○			○	
3	24	4か月	○		○	○			
4	25	39日	○	○			○		○
5	27	10日	○				○		
6	27	2か月	○	○	○	○		○	
7	27	3か月	○		○	○	○	○	
8	27	4か月	○		○	○		○	
9	27	7か月	○	○	○	○	○	○	○
10	28	1か月	○	○		○		○	
11	30	7か月	○	○	○	○	○	○	
12	31	23日	○			○	○		
13	32	2か月	○		○			○	○
14	32	5か月	○	○	○	○	○		○
15	32	6か月	○				○		○
16	33	52日	○		○	○	○	○	○
17	33	3か月	○	○	○	○		○	



(小括1:妊産婦の自殺についてわかっていること)

1)自殺は妊産婦死亡の原因として最も多い

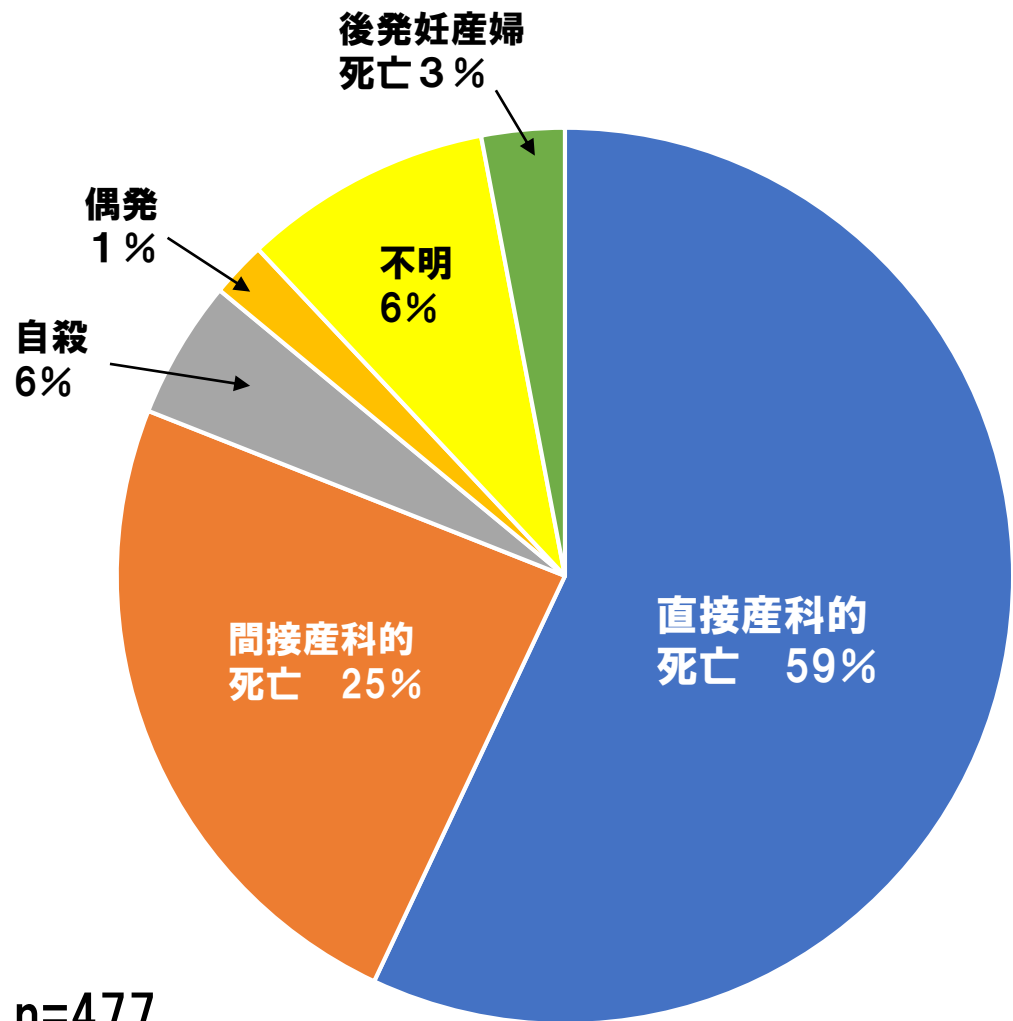
- ・従来知られていた妊産婦死亡率の2倍以上
- ・正確な数字は把握されていない

2)自殺の時期は、妊娠初期と産後のふたつのピークがある

- ・それぞれの対応を考えていく必要がある

3)妊娠初期の自殺は予期しない妊娠、産後の自殺は周産期うつ病 が大きな要因と考えられるが、いずれにしても精神障害の既往は 背景要因として重要であり、特に産後の育児不安が強い症例には 注意が必要である。

妊産婦死亡報告事業（日本産婦人科医会：2010～）



n=477

直接産科的死亡：

羊水塞栓症、産科危機的出血、
妊娠高血圧症候群、敗血症、
肺血栓塞栓症など

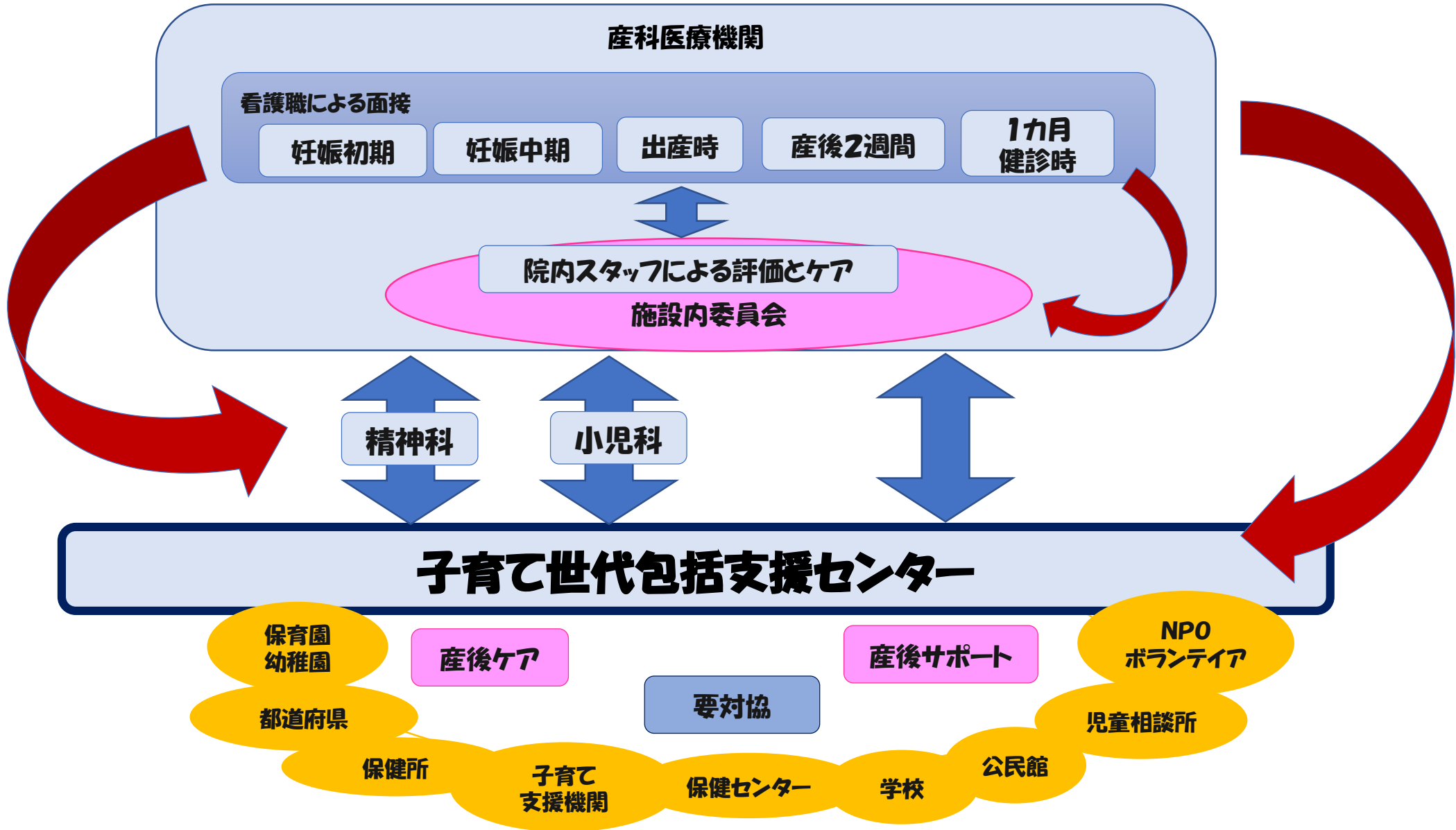
間接産科的死亡：

悪性新生物、感染症、糖尿病、
心血管系疾患、呼吸器疾患など

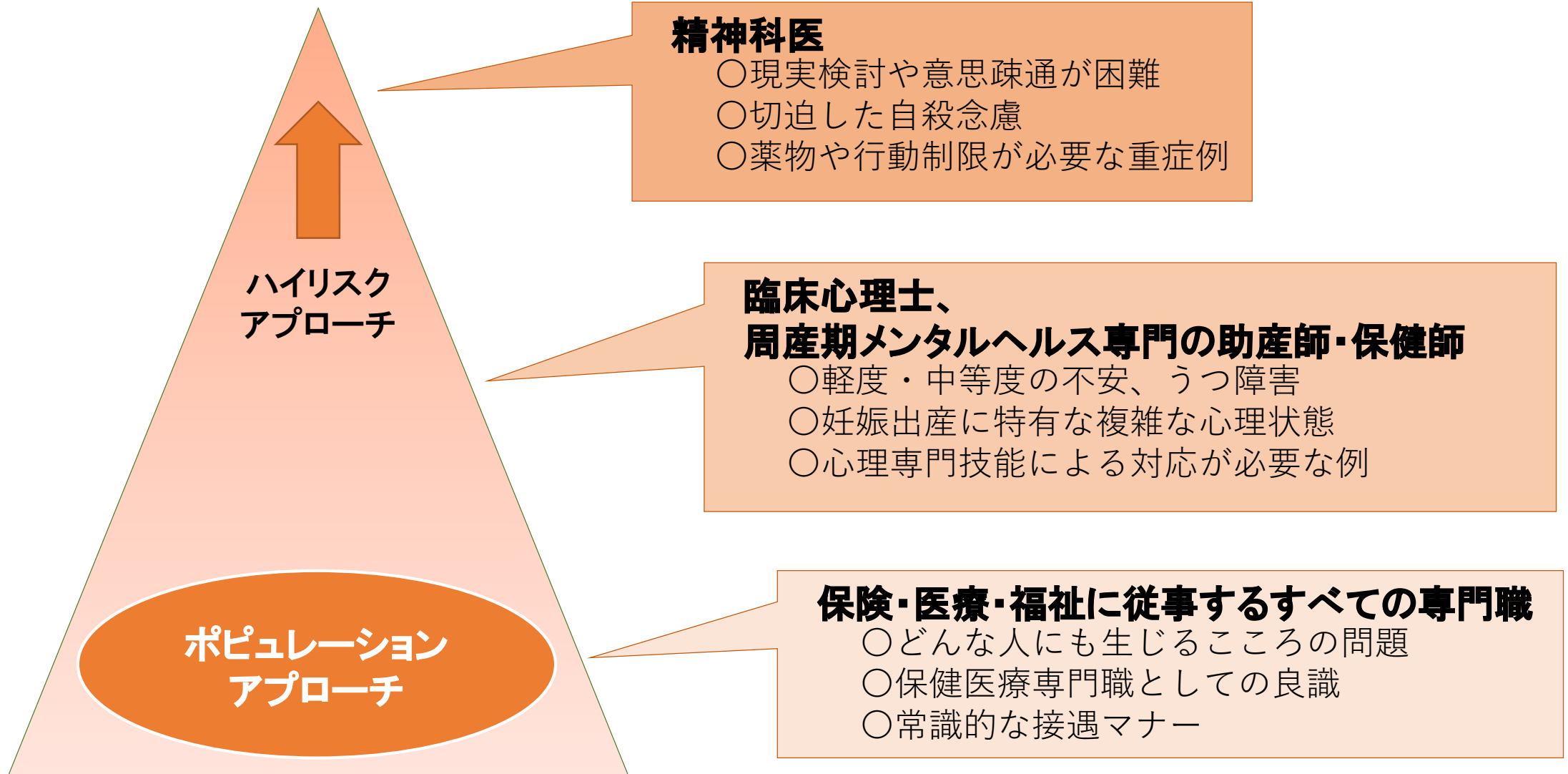
日本では直接産科的死亡が多い状況が続いているが、その割合は減少傾向にある。
妊産婦の自殺は6%



日本産婦人科医会 一周産期メンタルヘルスに関する事業— (2016～)



「母と子のメンタルヘルスケア研修会」がめざすもの

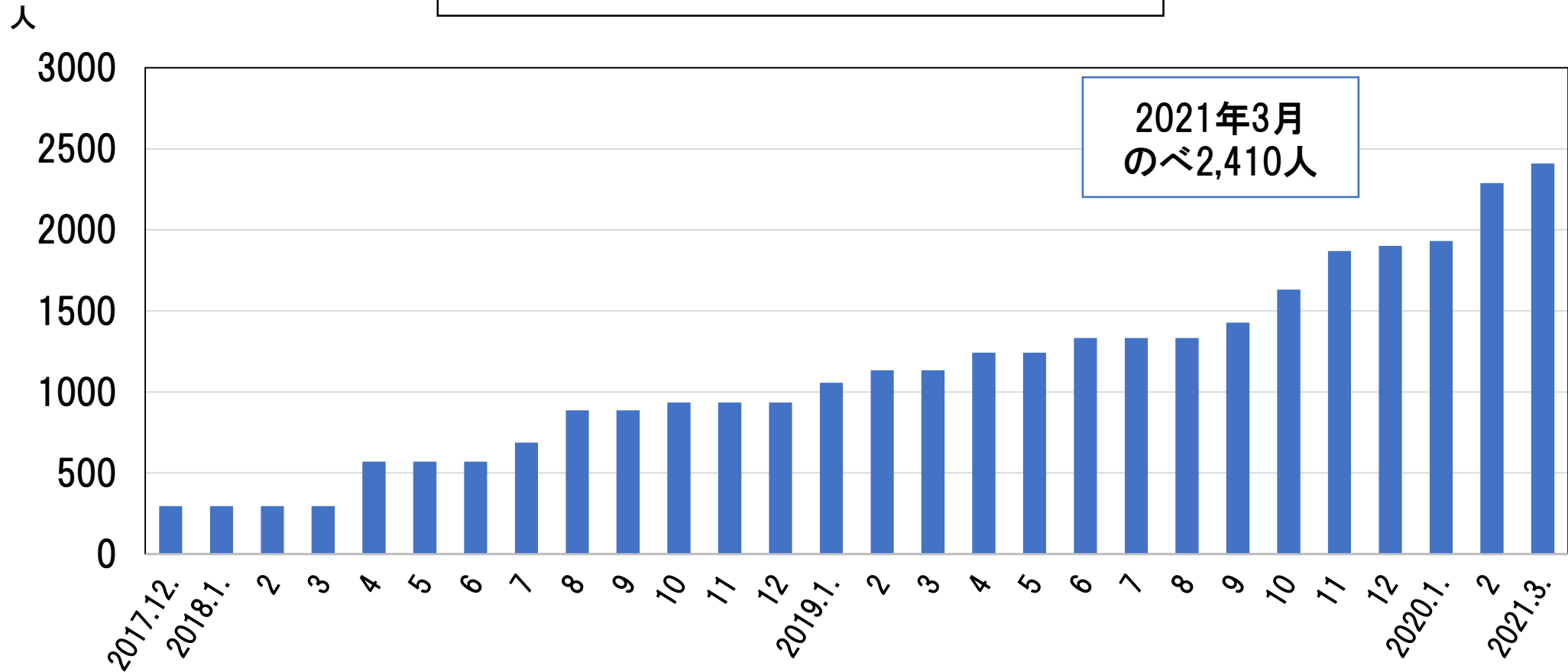




MCMC母と子のメンタルヘルスケア研修会開催状況と受講者(累積)

研修会開催状況(2017.12.~2021.3.)

- ・入門編研修会 25回 (うち地域研修会 18回)
- ・基礎編研修会 7回 (うち地域研修会 2回)
- ・指導者講習会 5回

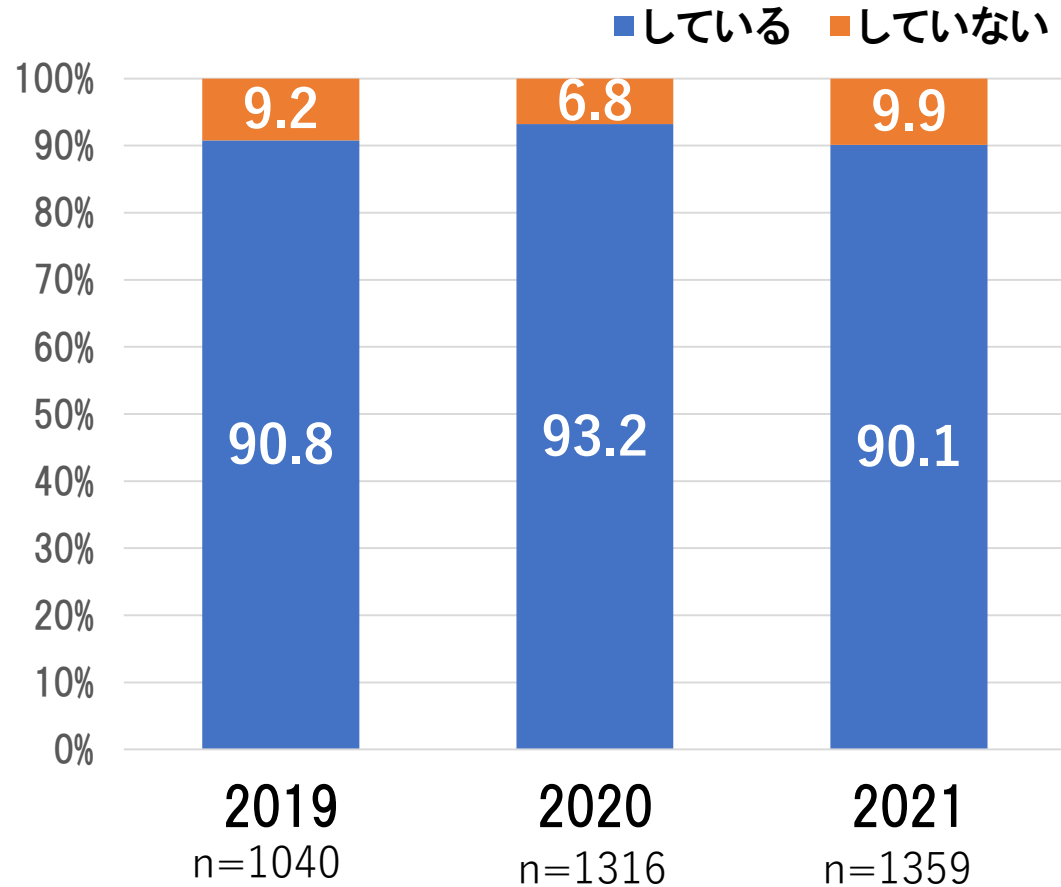




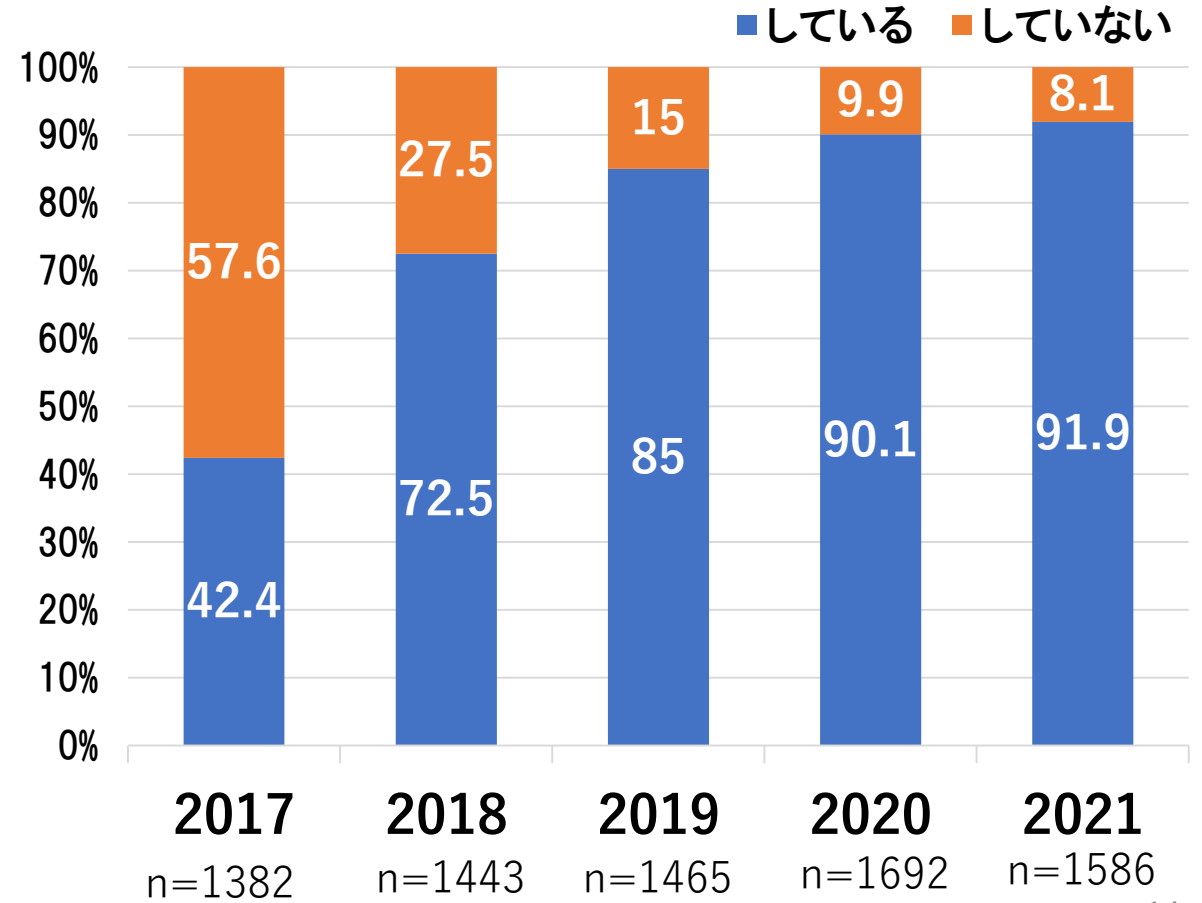
産後健診におけるメンタルヘルスのスクリーニング

(日本産婦人科医会～妊産婦メンタルヘルスケア推進に関するアンケート調査(2021)～より)

産後2週間健診



産後1か月健診



妊娠SOS

全国のにんしんSOS相談窓口

ご希望の相談窓口に直接ご相談ください。窓口名をクリックすると、連絡先や開設時間が載っています。

- ◆ 全国のにんしんSOS相談窓口
- ◆ 民間養子縁組機関（養子縁組と決めていなくても妊娠SOS相談は全国対応）

全国のにんしんSOS相談窓口所在地
※実施する自治体を含む都道府県を記載しています。
※2021年11月現在



東京都 妊娠相談ほっとライン

東京都では、都内にお住まいの方を対象に、妊娠や出産に関する様々な悩みについて、電話やメールで相談に応じています。

- 思いがけない妊娠、予定外の妊娠にとまどっている方
- 妊娠したかもしれないと不安になっている方
- 妊娠中の体調のことで悩んでいる方
- 出産費用が心配な方

そのほか様々な悩みを抱える方からの相談に看護師などの専門職が対応し、内容によっては適切な関係機関の紹介も行います。もちろん、匿名で相談できます。不安や悩みは一人で抱え込まずに相談を。

妊娠相談ほっとラインは東京都の委託を受け、株式会社法研が運営しています。



(小括2:現在の取り組み)

- 1) 妊産婦死亡報告事業(日本産婦人科医会:2010～)では、自殺事例の把握は十分とはいえないが、事例を検討することにより、今後の対応策を考える上で重要な取り組みである。
- 2) 周産期メンタルヘルスケアに関する事業(日本産婦人科医会)では、すべての妊産婦を対象にしたメンタルヘルスのスクリーニングとケアを目指しており、現在は9割以上の産科医療機関で産後健診における妊産婦のメンタルヘルスのスクリーニングが行われている。しかし、これを自殺予防に結び付けていくためには、リスクのある症例に対する具体的な対応方法を明確にしていく必要がある。
- 3) 妊娠初期の自殺を予防する手段としては、妊娠SOSネットワークや自治体の相談窓口があるが、実際の対応やその効果については検証していく必要がある。

新たな自殺総合対策大綱の策定に向けて

1) 自殺のリスク要因に基づいた対応策

妊産婦の自殺は「妊娠初期」と「産後」のふたつのピークがあるが、産婦の自殺は産後1年以内のあらゆる時期に起こっている可能性がある。また、その背景要因としては、それぞれ「予期しない妊娠」と「周産期うつ病」が重要と考えられる。周産期うつ病の半数は妊娠中に発症しているという報告もあり、妊娠中からのスクリーニングとケアが重要である。

⇒「予期しない妊娠」に対する「妊娠SOS」機能の検証と強化

⇒妊娠期から産褥期のあらゆる時期で妊産婦のメンタルヘルスに注意を払うこと

⇒特に「精神疾患の既往」と「育児不安」は自殺のリスクとして重要



新たな自殺総合対策大綱の策定に向けて

2) 具体的な体制づくり

妊産婦の自殺予防のためには、産科医療機関、行政機関、精神科、小児科など多職種が関わっていく必要があるが、これらの連携をスムーズに進めていくためにはコーディネーターの存在が必要である。また本年4月より改正母子保健法が施行され、産後ケア事業が自治体の努力義務となり、さらにその期間が産後1年まで延長された。自殺予防のためにこの事業が有効に活用されることが期待される。

⇒ 多職種連携のコーディネーターとしての子育て世代包括支援センターの機能強化

⇒ 産後ケア事業におけるメンタルヘルスケアの充実



(総括)

1) 妊産婦の自殺を正確に把握するための方法の確立

2) 自殺のリスク要因に基づいた対応策

- ① 「予期しない妊娠」に対する「妊娠SOS」機能の強化
- ② 妊娠期から産褥期のあらゆる時期でのメンタルヘルスケア
- ③ 「精神疾患の既往」と「育児不安」に対する対応

3) 具体的な体制づくり

- ① 多職種連携のコーディネーターとしての
子育て世代包括支援センターの機能強化
- ② 産後ケア事業におけるメンタルヘルスケアの充実